【地域コミュニティー部門賞】

大阪府　「水土里ネット河南町河南西部」

Ⅰ　水土里ネットの概要

１．水土里ネットの概要

・水土里ネット名：　河南町河南西部（ふりがな：かなんちょうかなんせいぶ）

・役職員数：役員　　１０　名、　職　員：常勤　１名、非常勤　１名

・組合員数：　　２０２　名

・受益面積：　　４８．１ha　（水田　７．４ha、畑４０．７ha）

２．地域の特徴

当地域は、大阪のいわゆる摂津・河内・和泉の中の河内に属し、府内でもめずらしく高速道路や鉄道が通過しない地域である。葛城・金剛の山系を挟んで奈良・和歌山に隣接し大阪のチベットなどと称されることもある。

古くから都市近郊農業として、葉物野菜・果樹等が栽培される一方、都市への労働力提供地であり続けてきた。

土地改良区の地域は、堺の湊から奈良に通じる歴史街道に近く近隣に河内大伴氏の居住にちなんだ「大伴」なる地名もあり、大伴氏一族の墓所と思われる大小古墳が約６０箇所点在していたため、農地造成に先立つ文化財調査により肝心の造成工事は数年間待機の止む無しに至るなどの苦難の時期を経て、大型古墳２基は造成区域に原状保存となった経緯がある。

現在は古墳の前で秋祭りの際、地元のだんじりがパレードを披露し、約１万人のギャラリーを集めており、古墳の斜面は格好の観覧席となっている。

Ⅱ　運動の背景と基本理念・目標

１．運動の背景

昭和５８年(１９８３年)改良区設立スローガンは奇しくも“２１世紀の農業を目指して”であったが、いわゆる農業県の改良区とはスケールにおいて格差が大きい。更に３５年を経て、２～３世代を交代した今日、都市近郊農業を再確立するためには、

・新世代に対する圃場の所属意識の高揚
・改良区内外を問わず遊休農地の解消（農空間保全）
・地域コミュニティーとの交流
・伝統、文化の継承

など、多面的に改良区をそして地域の農業を活性化する必要に迫られている。また、都市住民・元気な高齢者等への楽しみながら働く場を提供する。

２．運動の基本理念・目標

この地域は、昭和の開墾と平成の農地造成という２度の開拓が行われた。遺跡の存在などからも古の先人達の繰り返された努力の跡もうかがえる。今度こそ、この地に農業を定

着させねばならない。厳しい自然との対決を終えて、自然と共存できる環境を手にした今日これを維持し、拡大し、発展させることが我々の願いであり目標である。

Ⅲ　対象となる21創造運動の活動

■Ｎｏ１　　活動名　畑灌漑部会による排水路・耕作道の整備、維持管理

①開始時期：平成　２６　年度～　　②開催数：１２回／年（１２グループが年１回開催）

③実施形態：■主催　　□共催　　□協力　　□その他（　　）

④連携団体：団体名

⑤活動経費：　　１３０千円　内訳　補助金　１３０千円（事業名：多面的支払交付金　　）

⑥活動内容

当地区は、畑４０．７ｈａ、田７．４ｈａの計４８．１ｈａである。水田は古来よりいわゆる“溝掘り”習慣が定着しており、田植え前には必ず関係所有者（改良区組合員）総出で水路清掃を行うほか水路の保全管理を随時行っている。同時に出役欠席者は負担金（出不足）を支払うことも定着している。一方、畑部は各圃場に給水配管が設置されているため、保全管理の意識が低く接続排水路も土砂堆積や雑草繁茂が散見されている。そこで、平成２６年度から組合員の共同組織として、畑灌漑部会を組織し、所有者に農地の保全管理意識と共同作業による“絆”の育成を図り造成以来３代目、４代目への世代交代に備えている。畑の部分を１２の区域に分けて、各区域に１５～２０名のメンバーからなるチームとし、正副班長、会計をおき自主運営を目指している。これらは水田の“溝掘り”習慣にヒントを得たものだが、作物を核とした集合体が多い中、排水路を核として参加に強制力を持ちつつ自主運営により共同作業を行う組織は、他にあまり例を見ないものと自負している。立ち上げ以来４年目を迎えるチームもあり、完全定着への目途も立ち班長会議等で理事会では吸い上げられない所有者の細かな意見や要望の収集が可能となった。

⑦取り組みの工夫

世代交代とともに改良区に対する意識が希薄となり、相続で引き継いだ所有者の中には自分の所有場所がわからない方もいることから、まず所有意識と管理義務を持たせること、また給水管・排水路・耕作道などは共有資産であることなどを徹底し教育に努めた。

⑧取り組みの成果

定期的な行事として定着し、各チームとも欠席者が皆無で推移している。一部、自ら耕作をしていない地区外所有者の意識改革はほぼその目的を達成しつつある。

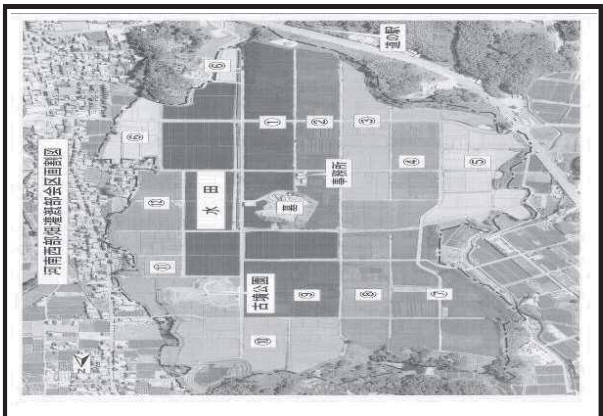
⑨マスコミ等への掲載について

なし

⑩参加状況　（延べ数）

年度	参加者数						参画団体数	参加者数計
	水土里ネット			一般		スタッフ数（内数）	行政土連等	
	役員	職員	組合員	小中高生	その他			
26	30	6	45		22	6	0	103
27	60	24	100		66	12	0	250
28	50	24	76		49（体験研修農園参加者）	10	0	199

⑪活動状況写真



畑灌漑部会区画割図

畑灌漑部会第９班道路側溝清掃

■Ｎｏ２　　活動名　農事組合と体験研修農園

①開始時期：平成　１６　年度～　　②開催数：随時（農事組合員による営農指導）

③実施形態：□主催　　■共催　　□協力　　□その他（　　）

④連携団体：団体名　　河南西部農事組合、ＪＡ

⑤活動経費：　　０千円

⑥活動内容

平成１６年ごろから改良区内で後継者難などによる休耕を希望する所有者が出始めた。一方、都市住民に家庭菜園など農業体験希望があることから、農事組合員（改良区組合員）が随時営農指導を行い、これらの繋ぎを行うこととした。１２年経過した今日１５０名の参加者が家族同伴で金剛・葛城の山系を見晴らせる畑で菜園作業を楽しんでいる。２０ａ以上を借りて地域の直売所に出荷している方もある。また、共同で水道配管を行って水掛け作業を簡素化したグループや、苗や種子の交換などのほか、真夏の夕刻に仮設のテントの下、仲間同士でグラスを傾けるなどのほほえましい風景もあり更なる拡大に期待が持てる。また、参加者が負担する研修費は、講習指導の教材や自由に使用出来る耕運機・トラクター・草刈機などの燃料費や部材費、修理等に充当している。

⑦取り組みの工夫

都市住民に農業の楽しみと苦しみを体験してもらった。
郷に入っては郷に遵う・・年２回営農指導員による営農指導講習会や、地元農家との接触による直接指導、水利権などの習慣法の習得など都会の人に時間を掛けて学んでもらった。

⑧取り組みの成果

⑥で述べた如く自ら愉しんでいただくと同時に、畑灌漑部会の清掃作業にもほぼ全員参加するなど交流の成果は如実に現れている。

⑨マスコミ等への掲載について

なし

⑩参加状況　（延べ数）

年度	参加者数						参画団体数	参加者数計
	水土里ネット			一般		スタッフ数（内数）	ＪＡ	
	役員	職員	組合員	小中高生	その他			
25	18	4			160	6	1	182
26	20	4			184	6	1	208
27	17	4			202	6	1	223
28	10	2			130	3	1	142

⑪活動状況写真

体験研修農園参加者の営農作業

体験研修農園参加者の営農作業

改良区組合員による体験研修農園者作付け研修会

営農指導員による体験研修農園者作付け講習会

■Ｎｏ３　　活動名　地区外に広がる休耕田対策と老人クラブとのタイアップ

①開始時期：平成　２１　年度～　　②開催数：常時

③実施形態：□主催　　■共催　　□協力　　□その他（　　）

④連携団体：団体名　寛弘寺地区自治会、２５、２６年度寛弘寺地区営農協議会
２７年度以降　畑田寛農会

⑤活動経費：　　３４０千円　内訳　補助金　３４０千円（事業名：多面的機能支払交付金　）

⑥活動内容

改良区域を含む河南町寛弘寺地域は、元気な高齢者が多く、老人クラブの活動も群を抜いて活発である。地域に住まう改良区組合員や体験研修農園参加者が中心となり自然発生的に、改良区域外に生じた休耕田への対応に着目するところとなり、土地所有者の理解を得て各自機器類を持ち寄り２１年頃からスタートした。２５年には寛弘寺地区営農協議会を設立し、事務部門を改良区に依存しつつ拡大をはかった。結果として２５年度は２０ａ、２６年度は４０ａ、２７年度は８０ａと遊休農地を解消し作付を再開出来たことは喜ばしいところである。

そして、町内保育園（２園）、幼稚園（２園）地元小学校の園児や児童を対象にさつまいも、ジャガイモ、たまねぎなどの植付けや収穫作業を体験させるなど太陽の下で土に触れる機会と併せて食育にも貢献している。

⑦取り組みの工夫

老人クラブ会長が地元出身者であったことから、有志の動員がスムーズであったこと、有志メンバーは定年退職者が多く、自作農地を持ちながらも営農経験希少ゆえ単独での耕作と同時に団体行動によって、機器操作などで足らざる経験の補填を行いあう場もできた。

⑧取り組みの成果

改良区の活動経験を踏まえて、寛弘寺地区において、休耕田の再活用に結果を出し得た。

⑨マスコミ等への掲載について

なし

⑩参加状況　（延べ数）

年度	参加者数						参画団体数	参加者数計
	水土里ネット			一般		スタッフ数（内数）	行政、営農協議会等	
	役員	職員	組合員	小中高生	その他			
25	33	14	50	774	42	97	3	913
26	38	12	43	768	48	93	3	909
27	35	16	52	780	40	103	3	923
28	12	4	23	511	23	39	3	573

⑪活動状況写真

地区外（寛弘寺地区）に広がる遊休農地復旧作業

地区外（寛弘寺地区）に広がる遊休農地復旧作業

幼稚園児によるさつまいも掘り

小学生によるじゃがいも堀り

■Ｎｏ４　　活動名　地域コミュニティーとの交流、伝統・文化の継承

①開始時期：平成　２７　年度～　　②開催数：随時

③実施形態：□主催　　■共催　　□協力　　□その他（　　）

④連携団体：団体名　畑田寛農会、地元各地区青年団６から１０団、老人クラブ

⑤活動経費：　　０千円

⑥活動内容

改良区の取り組みが、寛弘寺地区全体に拡大し、地域全体で水路を守る活動に発展している。平成２７年度に地域の改良区組合員が中心となり、畑田寛農会を設立し伝統的である畑田水路の維持管理を行っている。各小溝の“溝掘り”畑田水路本線の水路清掃と草刈などが主たる行事となるが、特に本線吸水溝は土砂流入が激しく豪雨・台風後は除去作業に追われることになる。そして、小溝の崩壊部の補強工事を実施した。（平成２７年度）畑田水路の小溝各所で手直しの必要が散見される。順次復旧を進めたい。

また、改良区は、地域の伝統・文化の継承にも取り組んできた。
秋の豊作を感謝する建水分神社大祭には初日の宮入、２日目の地元曳行が盛大に挙行される。改良区の農地造成終了後、造成区域内の古墳公園前に１０台ほどのだんじりが集結することになり、その豪快さに魅せられた観客数は１万人に及んでいる。だんじりは、午後三々五々集結を開始し、日没とともに夜の飾り提灯に模様替えをしたうえで激しく行き来を繰り返して豪快な曳っぷりを競う様に古墳の斜面を埋め尽くした観衆は歓喜を惜しまない、河内の秋祭りの見せ場の一つとなっている。

⑦取り組みの工夫
多面的機能支払に積極的に取り組み、改良区内はもちろんだが、寛弘寺地区において地域を拡大している。２７年度は改良区に隣接する畑田水路の流域を取り組んだが今後逐次拡大を進める。

⑧取り組みの成果
改良区から発信して地域全体に多面的機能支払の制度を拡大する第一歩ができたことは喜ばしい。また、祭りへの改良区域の開放は、耕地や作物を荒らされるというリスクはあるものの、郷土事業に協力することで地域との連帯が深まっている。

⑨マスコミ等への掲載について
なし

⑩参加状況　（延べ数）

年度	参加者数						参画団体数	参加者数計
	水土里ネット			一般		スタッフ数（内数）	行政 土連等	
	役員	職員	組合員	小中高生	その他			
27	58	15	145		80	73	7	298
28	36	13	78		42	49	7	169

⑪活動状況写真

改良区域外の寛弘寺地区での水路保全活動

吸水溝の土砂除去作業活動

改良区区域の古墳公園だんじりパレード

改良区域の古墳公園前だんじりパレード（夜）

Ⅳ　多面的機能支払、中山間地域等直接支払への関わり

①　施地区数　１　カ所　　②実施面積　４８　ha

③活動組織の構成

土地改良区、寛弘寺地区自治会、神山地区自治会、河南西部農事組合、越ケ井路水利組合、河南西部水田水利組合

④活動内容

各種施設の維持管理、府民への農業体験研修、学校教育との連携（幼稚園児・保育園児・小学生への食育）等

⑤水土里ネットの関わり

土地改良区が地域の先駆けとなってあらゆる取り組みを行っている。それに続いて、地域も事業（多面的機能支払、圃場整備（予定））に取り組んで行く。改良区役員は、各事業取り組みの豊富な経験を地域に展開すべく活躍している。改良区職員は事務全般をサポートしている。

⑥21 創造運動への波及効果

農業者の高齢化に伴う慣習に根ざした営農から、帰農者、近隣住民の参加を得られるようになった。空き家に住んでくれるＩターン者もある。

また、改良区理事長は地域の自治会長でもあることから改良区の成功を積極的に地域に取り入れて遊休農地の解消や食育に尽力している。

Ⅴ　運動全体の成果と今後の展望

土地改良区組合員の意識改革に成功しつつある。「土地改良区に任せておけばいい」から「自分達でやれることはやろう」という意識が 2 代目 3 代目世代に定着しつつあり、退職後の帰農者増になっている。

また、体験研修農業を実施したことにより大阪市内の方を始め多くの都市住民が農業を身近に感じていただくことができた。普段土に触れる機会が全くない方、野菜は安ければ国内外どこの産地でも同じと考えていた方など、研修会を通じて安心・安全な野菜が如何に大切で、農環境の保全、農業の重要さを身に沁みて感じとっていただいた。

改良区の取り組みの地区外への展開も水路崩壊部の改善、休耕田が子供達の課外研修の場と化すなど「見える」変化が起きている。

今後は、地区外での展開のさらなる推進・水路を核にした集団活動を深化し、これに老人クラブの労力を注入して営農の持続を計る。